

第一問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝起きて、ごはんを食べて、学校で勉強して、お友だちと遊んで……私たちににとっては、これらの活動が「生きている」ということの実感ですけれど、それができるためには、私たちの体がいつもいつも全体としてのまとまりをもってはたらく続けなければならないなりません。いつもは、そんなことを考えなくても、体はうまくはたらくようにできています。前にも書きましたが、少々こわれても自分でなおしながら。

(a)、私たちが「生きている」ってどういうことなのだろうということをもっと忘れて行動をすれば、体はうまくはたらくなくなりません。それは、生きているからこそ存在する「いのち」や「心」にとっても危機になります。では、生きているということをおぼえた行動とは何か。それを考えてみましょう。

ここでまた機械と人間を比べてみます。機械にはそれが達成する目的があります。自動車なら人や物を運ぶということ、その目的を最も効率よく行なえる機械がよい機械です。一方、私たち人間は、「自分自身が生きること」が大切であり、その生きることの中に、人に親切にするとか、世の中の役に立つ道具を發明するとか、それぞれの人の生き方、別の言い方をすれば、目的があります。つまり機械は、存在することそのものに意味があるのではなく、行なうはたらきが重要なのですが、私たち人間の場合、²存在することそのものにまず大切な意味があり、それとどのようにはたらきをするかということとは切りはなせないという特徴があります。

このような機械と私たちの違いを具体的に知るには何に注目すればよいのでしょうか。私はそれは「時間」だと考えています。機械の場合、できるだけ時間をかけずに目的を達するのがよい機械です。現代は科学技術文明の時代ですから、どんなよい機械が發明され、時間をかけないようにかけないようという方向に動いています。日本各地にジェット機が飛び、一、二時間あればどこへでも行けるようになりました。³べんりです。

(b)、生きものはどうでしょう。私たちは食事をします。自動車ではガソリンを入れるのと同じです。でも、食事はそれだけのものでしょうか。今日は何を食べようか。まず、これを考えるのが楽しみです。⁴じつは私は今日、友人が市民農園で作ったじゃがいもで肉じゃがを作り、家族に説明をしながらいただきました。おいしかったし、楽しかった。これにはたくさんの時間がかかっています。畑でのじゃがいも作りから考えたら大変な(c)です。でも友人は、畑仕事をしたり、そこで収穫した野菜を友人におすそわけすることを楽しみ、会社での仕事をする力をそこから得ているのです。料理も食事も、その道程がすべて「生きている」ことであり、それを大切にすることは、私たちが存在することの一つの意味なのです。

このようにして食事をすれば、体も自然にすっかりとはたらくてくれますし、心も豊かになるでしょう。もし、ここに効率よくという考え方をに入れて、畑での⁵さきょうも料理も切り捨て、すべてをお金ですませるような生活にしたら、これは生きていくことにはなりません。きつと心もすさんでくるでしょう。

すでに何度も言ったように、いのちや心は「これです」といつてとり出せるものではありませんが、「たしかにそれがあるなあ」「私たちにとってそれは大切なものだなあ」と実感することはできます。その実感の一つが、日常の生活をていねいに暮らし、そこで過ぎていく時間を心に止めることだと思えます。

ところが、⁶今の社会はそこに⁷かちを認めない傾向があります。早くできることがよいというかちです。時間をかけて自分で食べものを作るのは止めて、できあがったものを買えばいいじゃないか。お金さえあればそれはできるよ、という考え方は、日本の国はその道を選んだので、食糧自給率が四〇パーセントという低いものになり、どんな人がどんなふうにつくったのか分からない食べものを口にするようになりました。たしかに効率はいいかもしれませんが、でも、本当にこれでよいのでしょうか。

もう一度くり返します。長い生命の歴史の中で生まれた私たちが、生きるということは、時間をつむぐことであるのに、毎日の暮らしという時間を大切にしない社会になってきたために、体の中でいのちや心が(d)をあげているような気がしてなりません。

(中村桂子『いのち』って何)

問一 —— 線3「べんり」・5「さぎょう」・7「かち」を漢字で書きなさい。

問二 (a) ・ (b) に入れるのに最もふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア では イ つまり ウ そして エ けれども

問三 (c) ・ (d) に入れるのに最もふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 食事 イ 悲鳴 ウ 手間 エ 効率

問四 —— 線1「その目的を最も効率よく行なえる機械がよい機械です」とありますが、「よい機械」とはどのような機械ですか。解答らんに入合形式で、二十字以内でぬき出しなさい。

問五 —— 線2「存在すること」とありますが、これと同じ意味で使われている表現を、同じ段落の中から十字でぬき出しなさい。

問六 —— 線4「じつは私は今日、友人が市民農園で作ったじゃがいもで肉じゃがを作り、家族に説明をしながらいただきました」とありますが、この一文で「友人が」はどの文節にかかりますか。もつともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 作った イ 作り ウ しながら エ いただきました

問七 —— 線6「今の社会」とありますが、筆者は今の社会をどのような社会だと考え、何をすることが必要だと述べていますか。次の二つの語句を必ず用いて、六十字以上七十字以内で答えなさい。

【語句】 時間 日常

問八 本文の内容と合っているものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 私たちは、だれがどう作ったのかわからない食べものを食べることに不安を感じている。

イ 科学技術文明の時代の特徴は、それぞれの機械が達成する目的を持っていることである。

ウ 食事をたくさんとることは、体だけでなく、いのちや心にとってもすばらしいことである。

エ 私たちにとって、自分が生きているという実感を得られることは大切なことである。

第二問

次の1～10は身体に関することばを使った慣用語です。下の【 】内の意味を参考にして、() に入れるのもつともふさわしいものをあとのア～コの中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

1 顔が () 【有名になる】

2 耳を () 【熱心に聞く】

3 目を () 【すばらしさに見とれる】

4 鼻が () 【得意になる】

5 歯が () 【相手が強くとてもかなわない】

6 首を () 【心待ちにする】

7 肩を () 【味方をする】

8 胸を () 【感動させる】

9 腕が () 【上達する】

10 足を () 【予定より遠くへ行く】

ア 打つ イ 売れる ウ 上がる エ 奪^{うば}われる オ 傾^{かたむ}ける
カ 伸ばす キ たたない ク 持つ ケ 高い コ 長くする

第三問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

おばあちゃんが、*1 玉のれんをわけて、*2 厨房へ入ってきた。

「一子は、ほっとした。おばあちゃんは、一子のテストにちらっと目をやって

「いいお点やないの。これだけの点とってきて、ぎゃあぎゃあ言われるんやから、一子も *3 不憫やなあ」

とお義母さん、言わせてもらいますけど、お義母さんが一子に甘いから、勉強することにええかげんな気持ちしか持てん子になるん

「ま、何を考え違ちがいしてますの。うちは、わが子のできんとこばっかり引つ張り出して、ぐちぐち言うのはおかしい言うてるんです。

「一子は、よお手伝てんいがでけるやないの。それで充じゅうぶ分ぶんやと思わへんの」

「手伝てんいと勉強べんきやうをごっちゃにせんといてく下さい。それと、一子の教育に、いちいち口はさまんといてく下さいね。ほんまに、塾じゆくでもやらなあかんかしら」

「ま、やらし。かわいそうなんは、一子やわ」

「一子は、柳井やなぎいくんをちらっと横目で見てみた。

柳井くんは、口を少し開けて、おばあちゃんとお母ちゃんのやりとりを眺ながめてる。びっくりしてるんだ。一子は、その間延まのびした顔かほがおかしくてたまらなくなった。

「一子！ 何、にやにやしてんの。自分のことやで、しゃんどしい。このまま、中学なったらどないすんの」

「良よ子さん。あなたの言い分聞いてると、一子がよっぽど出来の悪い子に聞こえますえ。この前の算数のテストなんか九〇何点、と

つてきたやないの。たいしたもんや」

「そうそう。一子は、いそいで領うりやういた。

「うちな、国語より算数の方がとくい」

「そうか、ええことや。商売しよう思うたら、算数ができるのは得とくやで」

おばあちゃんが、笑いかける。反対に、²「一子は自分の表情がこわばるのを感じた。

「一子、はたる館くわんを継つぐようになった時、お金の出し入れが計算でけんようでは困るからな。そこらへんは、がんばって勉強しいや」

冗談じやうだんやないで。一子は、お母ちゃんを押しつけるようにして、おばあちゃんの前に立った。

「おばあちゃん、このごろちよっとおかしいで」

おばあちゃんの視線が、ほんのちよっと横に流れた。それから一子の上にゆっくりもどってくる。

「うちの何がおかしいで？」

「一子は、下した唇くちびるを軽くなめてから、言葉ことばを続けた。

「そうかて、このごろ、はたる館くわんを継つぎ、継つぎ、そんなことばっかし言うてるやん。うちのことは、うちが自分で決めるんや。お

ばあちゃんにごちやごちや言われとうない」

あ、言うてしもうた。頭のどこかで、しまったという後悔こうかいが火花ひかりのようににはじけた。今のほたる館くわんの状態じやうたいでは、なかなか口に出せ

ないと自分なりに悩なやんだはずの言葉ことばなのに、あつさり飛び出してしまった。

³「おばあちゃんの顔から表情が消えて、妙みづみにひらべったく見える。しゃあない、言いたいこと言うてしまお。一子は、覚悟かくごを決めた。

「うち、中学生になったら、体操部に入るんや。そこまでは決めてる。そこから先のことも自分で決める。おばあちゃんの好きな方

へ引ひつ張はらんといて」

「一子、これ、なんて言い方するの」

お母ちゃんの手が、一子の手首てしなを握にぎった。ぴしっと痛みを感じるほど冷たい手だった。

「一子」

おばあちゃんの顔が、少し赤らんできた。

「うちはな、あなたの首くびりに鎖くさりをつけて思いどおりにしようなんて、考えてるわけやないで。ただな、ほたる館くわんは、東京がお江戸で

言われてたころからの古い旅館りやういんや。うちの代よで先々さきさきが見えんようなことにしようない。お父ちゃんやお母ちゃんのその後をおんたが

見てくれるてわかったら、安心あんしんでける、そう思うたんや」

一子は、お母ちゃんの冷たい手を振りはらった。

「(A) ()。そんなん勝手やわ」

頭の後ろで、ビターンと音がした。二、三歩前さんぽまへによろめく。

「(B) ()。おばあちゃんは、こうして欲ほしいて言うてはるだけやないの。いちいち目えつりあげて、⁴生意気しやうぎな口

きくんやないで」

そっちこそ、上がり目のくせに。鈍にん痛いたむ頭の後ろを押さえて、一子は、お母ちゃんを睨にらみつけた。

「(C) ()。そうや、だいたいお母ちゃんが子ども一人しか産まんからあかんのよ。十人ぐらい産んでたら、うちば

っかしこんなこと言われんかてすんだんや」

「あほ。(D) ()。まったく、一人で大きゆうなつたような口きいて。大人の言うことはな、もうちよっと⁵素直すぢに

聞くもんや」

素直に聞けんことやから、嫌やて言うてるんやないの。一子は、胸の真ん中へんで息がつかまって固まっていくような気がした。「あのう、大人の言うことは、何でも素直に聞かなあかんいうの、ちょっと間違てる思いますけど……」

「ほら、あのう、やっぱり大人の方が力あるし、力のある方が思うこと通しやすしい……えっと、だから、大きな国がミサイルやなんかで、小さい国おどかすのに、似てて、ちょっとおかしいなと思うて……」

「そりやそうや。大人の言う方が、いっつも正しいとは言えんもんな。大きい国と小さい国か。 *4 ぼん、うまいこと言うやないか」お父ちゃんが、ぬれぶきんを（X）音を立てて振った。

「何言うてますの。誰がミサイルの話なんかしてます。うちは、一子が *6 強情やて言うてるんです。ほんまに、二人して、なにずれたこと言うてるの」

「えー、ずれてました」

えー、と言う時の柳井くんの顔は、ますます長くなる。ま・の・びという感じそのままだ。お母ちゃんが吹き出した。下ごしらえの手伝いに来ていた *5 仲居さんたちもつられて笑い出す。くつくつとさざ波のような笑い声が、厨房に広がった。

*7 一子は、笑わない。下唇を噛み締めたまま、黙って立っている。ここで笑うたらあかんのや。（Y）胸が痛いほどそう思う。あはっと笑っておしまいになる、いつもの口げんかとは違うのだ。

柳井くんから目を離し、振り向くと、おばあちゃんも笑っていないなかった。まあるいふつくらとした顔の中で、薄く紅色に塗られた唇がわずかに動いたようだ。一子は、ふいに目の奥が熱くなってきた。

ランドセルを掴むと、厨房を飛び出した。そのままの勢いで *6 離れの自分の部屋に駆けこむと、頭からベッドにもぐりこんだ。毛布の中で半回転して、枕に顔を埋める。涙が出てくるのかと思っただけ、目の奥の熱はいつのまにか消えて、かわりに頭の芯が微かに痛みだした。

*1 玉のれん……玉を糸に通して下げたのれん。 *2 厨房……調理場・台所。 *3 不憫……かわいそうなこと。（あさのあつこ『ほたる館物語』）

*4 ぼん……男の子のこと。ぼっちゃん。

*5 仲居さん……旅館などでお客の接待をする女性。

*6 離れ……母屋（家の中心的な建物）から離れて作られている建物。

問一 —— 線4「生意氣」・5「素直」・6「強情」の読みをひらがなで書きなさい。

問二（A）（D）に入れるのにもつともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。
ア 子ども産むいうのはな、記念スタンプ押すのと違うんやで
イ ええかげんにしときい
ウ それは、おばあちゃんの都合やろ
エ お母ちゃんなんか、関係あらへん

問三（X）（Y）に入れるのにもつともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。
ア パンパンと イ ひしひしと ウ きりきりと エ ヒラヒラと

問四 —— 線1「一子は、ほっとした」のはなぜですか。二十字前後で答えなさい。

問五 —— 線2「一子は自分の表情がこわばるのを感じた」とありますが、これは直前のおばあちゃんのことばがいやだったからですか。次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。
ア ええこと イ 商売 ウ 算数 エ 得

問六 —— 線3「おばあちゃんの顔から表情が消えて、妙にひらべったく見える」とはどのような様子ですか。次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。
ア 一子から反発されるとは思っていなかったの、意外さについていけない様子。
イ 一子との親しい関係が終わったのだと思ひ、深い悲しみにしずむ様子。
ウ 一子のことばに母親がどう反応するかが心配で、落ち着かない様子。
エ 一子が話したわがままなことがらに對し、なんとか怒りをおさえている様子。

問七 —— 線7「一子は、笑わない」のはなぜですか。次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。
ア 真剣に話しているおばあちゃんにもうしわけないと思っただから。
イ 怒っていたおばあちゃんまでがなぜ笑うのか理由がわからなかったから。
ウ 自分の考えを支持してくれている柳井君をばかにすることになるから。
エ 旅館を継ぎたくないという強い意志が伝わらなくなってしまうから。

問八 この文章についてaくん・bさん・cくん・dさんの四人の小学生が話し合っています。本文の内容に合わないことを述べている人はだれですか。次の中から一つ選んで、a～dの記号で答えなさい。

aくん「一子ちゃんの家は江戸時代から続く旅館なんだ。」

bさん「おばあちゃんは旅館を継いでもらいたいんだね。」

cくん「その気持ちはお父ちゃんにもあらわれているな。」

dさん「でも一子ちゃんには自分のしたいことがあるんだね。」